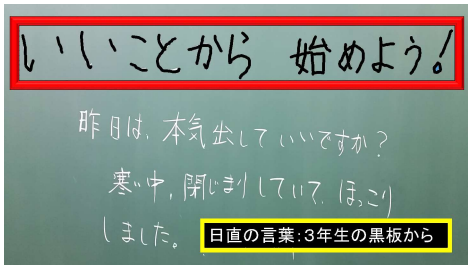
「パワーフレーズ（勇気が出る，素敵な言葉）」をルーティーンしよう

校長　田淵　省二

「障がい者は，失心者（心を失った者）だ。人ではない。だから私は，人を殺していない。」と犯人は，今でも述べているという。その事件は，平成２８年７月２６日に起きた。神奈川県相模原障害者施設やまゆり園で，１９名の障がいを持つ方々が亡くなった日だ。犯人は，やまゆり園に勤めていた元職員である。殺人動機は，「障がい者は，人の幸せを奪い，不幸をばら撒く。障がい者がいない方が家族は幸せで楽だ。」とも言っている。更に，あの事件の２年後の今でも犯人の行動に**「共感する人たち」**がたくさんいるという。「犯人はよくやった。障がい者に税金を使うな。」などと『英雄』としてたたえる人たちがいることも事実である。その犯人は，「自分のことを『救世主』」とも言っている。

【県人権作文コンクール最優秀賞：抜粋】



このような衝撃な事件でしたから，みなさんの記憶も新しいと思いますが，この内容を書いたのは，君たちと同じ年代の鹿児島市立伊敷台中１年生の「宮下　和（なごみ）」さんである。彼女は，妹の「光」さん（小学校４年生）が，ダウン症（知能や運動能力がゆっくりと発達することが多い障がい者）であることも紹介している。

そして，犯人への怒りと，妹の成長ぶりと比較しながら自分の考えをしっかりと述べている。例えば，「障がい者がいないことで家族は，幸せで楽だ。」という犯人の考えに対して，和さんさんは「妹の光がいるから，いつも明るく，にこにこできて楽しい。」と述べている。**犯人は，障がい者のできないところばかり見ている**のに対して，和さんは，**妹の姿に，できるようになったところ見ていて，「無限の可能性」を感じている。**その証拠に，小学４年生でひらがなだけでなく，カタカナや漢字にも挑戦して，少しずつ書けるようになり，文字の世界が広がった。そして，足し算やお金の計算も頑張り，お買い物の手伝いが大好きになったことや私以上にたくさんの体験をしていること，ゆっくりではあるが，確実に成長していると作文内容は，書かれている。

この人権作文を読みながら，私も次のようなことを対比して考えてみました。

以前紹介しましたが，現在も本校の校門には，**「今日のパワーフレーズ」**が書かれています。その前で立ち止まり，確認した後，校門の階段の上部で立ち止まり**「瞬礼」**をすることが「習慣（ルーティーン）」となっている人も増えてきました。

また，栗野中の校内には，生徒一人一人の「パワーフレーズ」も掲示されており，勇気づけられる言葉を見ては，口ずさんで歩いています。これらの言葉は，旧生徒会役員が，一人一人のパワーフレーズをアンケートし，困った時や苦しんだ時に「こんな言葉で自分自身を奮い立たせている。」と教えてくれたみんなの言葉です。**「共感」**できる言葉ばかりです。全員が楽しい学校，そして，楽しい毎日となるように取り組んでくれた活動の１つです。小さな掲示物ですが，何人も勇気づけてられていると思っています。

また，先日の**「人権旬間」**の一環として行われた人権集会で，「パワーフレーズ」のことに少し触れましたが，自分の弱さを知っているから，その言葉が好きになり，強く生活していきたい思ったり，悩んだり，苦しんだりした時に出会ったから，その言葉が好きになったはずです。日本語には，たくさんの素敵な言葉があります。良い言葉を繰り返し繰り返し使ってほしい。間違った知識で覚えた言葉を使わないために！

しかし，そんな中，今でも残念な言葉を，使う人がやっぱりいるという報告を受けることがあります。「えっ？あの生徒が！」と思った瞬間，どんな表情でそんな言葉を発しているんだろうか。悪い癖になっていないだろうか。と心配してしまいます。

現在，様々な障がい者や差別を受けてこられた方々の生活や心を学ぶ取組が，本校だけでなく，全国のいろんな場面でタイムリーに行われています。いろんな方々が，栗野中学校に足を運んでいただいた時に，君たちの活動の様子をいつもオープンにしていたい。

私は，「今の栗野中学校の姿（校内の整理整頓も含）」をもっと自慢したいからです。

「今の栗野中学校は，今の君たちの本当の姿だからです。」もし，今のままでは良くないと思っている人がいたら，和さんのように声を大にして訴えてほしい。

もっともっと「パワーフレーズ」を今日も明日も明後日も，毎日，ずっーと，一生使って，良い癖になるまで**「ルーティーン」**していこう。